北海道・「北の山岳リゾート」層雲峡温泉特集

カムイミンタラで心と体を癒やそう

北海道の屋根といわれる大雪山国立公園は面積約23万ヘクタールに及ぶわが国最大の国立公園。アイヌの人々はこの地域を「カムイミンタラ（神々の遊ぶ庭）」と呼び、敬っていた。その観光拠点となるのが層雲峡温泉（上川町）で「北の山岳リゾート」を標榜する。自然の素晴らしさや観光スポット、将来を見据えた活動などを紹介する。

日本一早い紅葉、圧巻の自然美

銀泉台の紅葉は見る人を圧倒させる

流星・銀河の滝は「日本の滝百選」に選ばれている

黒岳ロープウェイからの眺めは抜群

未来観光戦略プロジェクトの活動

「イルミネート」など成果着々

2016年4月、層雲峡温泉に若手経営者らでつくる「未来観光戦略プロジェクト」という組織が立ち上がった。現在、ホテル大雪の西野目智弘社長が座長を務め、観光協会や宿泊、運輸、商店、行政などがメンバーとして名を連ねている。

滞在型のコンテンツをどうつくるか、層雲峡に泊まらなければ体験できないものとは…。「無理」「できない」ではなく、「どうしたらできるか」を探り、実行に移すため、月1回会議を開き、話し合っている。

成果の一つが、層雲峡の弱かった部分のナイトエコノミーの充実を図るため、観光スポット「紅葉谷」を舞台にしたライトアップイベント「奇跡のイルミネート」の実施である。

18年9月に実現した。3週間で8千人を超える人が来場。

実現のネックとなったのが、前例がなく、ライトアップによる大雪山国立公園内の生態系に影響を与えないかという問題だ。環境コンサルタントに依頼し、動植物の生息環境の調査などを行い、環境省の許可を得た。イベント期間中もモニタリングを行うなど、気を使った。

今や秋の夜間イベントとして定着。インタラクティブプログラムを取り入れるなど毎回趣向を凝らし、観光客の目を楽しませる。20年5月には「じゃらんアワード元気な地域大賞」を受賞。5回目となる今年は9月17日～10月16日に開催する。

19年4月には紅葉谷の植樹を行い、貴重な自然を守ろうとクラウドファンディングに挑戦、14

0万円ほどを集めた。また、今年3月には環境省の「大雪山国立公園を活用した女子旅アドベンチャーツーリズム×ワーケーション事業」を受託した。

これからの層雲峡

西野目智弘座長（ホテル大雪社長）

層雲峡温泉は2018年の上川町第10次総合計画において、「北の山岳リゾート」を目指すことになりました。過去に「プラン65」と称する大規模再開発により、温泉街の街並みを山岳リゾート風に衣替えしていました。

関係者や外部識者を含めて多くの議論を交わしてたどり着いたキーワードが「北の山岳リゾート」でした。単なる山岳リゾートではなく、〝北〟に大きな意味が込められています。北海道の屋根「大雪山」に立地する層雲峡温泉だからこそ実現できることがあると思っています。

た。

しかしながら、長い年月のなかでインフラの老朽化や商売をする方々も減って、当事者のわれわれから見ても寂しい温泉街となってしまっていました。「温泉街や商店街の活性化をしなければ」という思いは携わる誰もが抱いていましたが、それを進める原動力に欠けていました。

キーワードは「北の山岳リゾート」

一方で、われわれのなかでも「北の山岳リゾート」とは一体何か、どうすれば実現できるのかという問いが立ちはだかっています。その答えを見いだすためには実現へのベクトルを合わせることと、その答えにたどり着くためのルートをあえてバラバラな方法で進めることだと思っています。

なぜなら、お迎えするゲストもかつて団体客を受け入れていた時代とは異なり千差万別。さまざまなアプローチがあって初めて多くのお客さまが楽しめる場所になると考えています。

大雪山が育む大自然は多くの恵みを与えてくれますが、厳しい自然環境も等しく与えます。このような表裏一体の環境を感じていただける場所が北の山岳リゾートの醍醐味（だいごみ）だと思います。

植田拓史副座長（りんゆう観光社長）

りんゆう観光は、層雲峡を訪れる多くの観光客、登山者、ウインタースポーツ愛好家に、大雪山国立公園の雄大な自然を楽しんでいただくため「大雪山層雲峡・黒岳ロープウェイ」を運行してまいりました。2022年で運行開始から55年となります。

2023年の「アドベンチャートラベル・ワールドサミット」（ATWS）に向けてさまざまなコンテンツを開発しており、ランタンフェスや紅葉イルミネーションなど新たなイベントはもちろん歴史ある「氷瀑まつり」なども毎回ブラッシュアップして、季節ごとに楽しめるリゾートを目指しています。

また、近年では宿泊施設の改装や新たな価値提供にも積極的に取り組んでおり層雲峡温泉にとっては一大転換期を迎えていると感じております。

地域DMCとの協業により一層滞在が充実したものになるよう関係者一同、努力を続けてまいる所存です。

暮らしに紛れ込む非日常を提供

わたし自身入社して15年がたちましたが、この間「団体旅行→個人型旅行」「国内需要→海外需要」「モノ消費→コト消費」といった大きな時代の変遷を、層雲峡地域を通じて見てきました。

層雲峡地域の再活性化については、温泉街単体で議論するのではなく、広く地域の未来と重ね合わせる視点が大切と考えています。層雲峡温泉のある上川町の人口は3273人（22年6月現在）。道内の多くの地域と同様、人口は減り続けています。地域で育つ子どもたちも年々少なくなり、当社従業員も上川町出身者は2割に満たない状況です。

地域に根差してお客さまを「ホーム」に迎え入れる人財が育たなければ、地域の再活性化はなかなか進んではいかないだろうと考えています。

そのような中で近年、町外出身者移住促進の取り組みが実を結び始めています。町所有の建物をリノベーションし宿泊業を営む方。町内の河川でガイドとしてラフティング体験を提供する方。地元事業者のもとで修業し、事業を引き継ぎ、ラーメンやホットドッグといった飲食店を開業する方。新しい力が地域に根を下ろし上川町・層雲峡を「ホーム」と感じ、これまでになかったものを産みだしていくことが、訪れる人にとっての魅力になると考えています。

「北の山岳リゾート」といっても、いわゆる「きらびやかな大型リゾート地」を目指すことは現実的ではありません。大きな自然を感じながらゆったりと時間を過ごし、そこで住み暮らす人の暮らしにそっと紛れ込む。そんな非日常を体験し、何度も訪れたくなる。それがわたしたちの層雲峡であり、「北の山岳リゾート」であってほしいと思います。

ライトアップイベント／充実する観光窓口

奇跡のイルミネートV

ポスター

モミジなどの美しさ引き出す

層雲峡温泉街近くの紅葉谷で木々をライトアップする恒例の「奇跡のイルミネート」が9月17日から10月16日まで開催される。闇夜に浮かび上がるモミジやナナカマドの美しさは感動ものだ。

5回目となる今年は、商店街から会場まで約1万2千のLEDガーランドライトを設置、雰囲気を盛り上げる。「使用する器具はソーラーシステムによる電源供給で、二酸化炭素（CO_2）を削減、環境に配慮する」（実行委員会）。

また、宿泊施設から会場までの〝足〟を確保するため、温泉街循環シャトル便を運行するほか、新たに電動キックボードや電動アシスト付き自転車を貸し出す。

ライトアップは18～21時。今年は昨年（7639人）を上回る8500人の来場を見込んでいる。

問い合わせは層雲峡観光協会、☎01658（2）1811。

層雲峡観光案内所

キックボードの貸し出しを開始

大雪山ツアーズ（西野目信雄社長）が運営し、観光客への案内やバスチケットの販売などを行う層雲峡観光案内所は、電動キックボードや電動アシスト付き自転車、マウンテンバイクなどの貸し出しや、オリジナルツアーの取り扱いなどを行っている。

層雲峡温泉は坂道が多いため、観光客の負担を軽減し、手軽に巡ってもらおうと電動キックボードの貸し出しを始めた。料金はヘルメット付きで1時間千円、2時間2千円。1日では5千円となっている。利用するには原付免許が必要だ。現在は2台だが、徐々に保有台数を増やしていく。

電動アシスト付き自転車、マウンテンバイクとも料金は2時間千円、1日2千円。いずれもヘルメット付き。

旅行商品の造成、販売も計画しており、日本一早い、美しい紅葉を楽しんでもらうトレッキングプランを販売している。

問い合わせは☎0165（8）3350、または080・2867・5833。

電動キックボードや電動アシスト付き自転車などで層雲峡温泉巡りがグッと楽になる

地域活性化に貢献する施設

体験型交流施設 ヌクモ

子どもの学習能力向上

廃校になった小学校をリノベーションした体験型交流施設「大雪かみかわ ヌクモ」がオープンしてまる2年。多くの子どもや父兄、観光客らが利用し、町の地域おこしの拠点の一つとなっている。

ヌクモは住民と移住者、観光客との「温もりあふれる」交流の場を目指すという思いが込められている。

目玉の一つが、最新のテクノロジーを活用したシステムやデジタルコンテンツの開発を行う「チームラボ」による子ども向けデジタルプログラム「あそぶ！天才プログラミング」。

紙に自由に絵（男の子や女の子など）を描き、タブレットでプログラムを作ると絵に命が吹き込まれ、壁に映された草原の中をプログラミングした通りに絵が動き出す。草原には他の子どもが描いた男の子や女の子もおり、友達になったりもできる。体験料は1人1500円で、大人も参加できる。

フリースペースやブックコーナーのほか、カフェスペースもあり、地域の憩いの場にも。

問い合わせは☎0165（8）4000。火曜定休。

ブロックやバンク（斜面）などで体を動かす

描いた絵が壁に映し出され、プログラミング通りに動く経験はとても貴重だ

大雪森のガーデン

3エリアに多彩な草花

四季折々の草花が咲くおもてなしの庭

工藤真希江さん

北海道ガーデン街道は大雪―富良野―十勝を結ぶ全長約250キロの街道の総称。八つのガーデンから成り、その一つが上川町の「大雪森のガーデン」だ。大雪山連峰を望む丘陵に広がる森に造られたガーデンで、北海道らしい雄大な景色が眼前に迫る。

900品種を超える、色彩豊かな宿根草が咲き誇る「森の花園」、自然の木々や可憐な山野草に囲まれて寛ぐ「森の迎賓館」、緑あふれる「遊びの森」の三つのエリアがある。

例えば、森の花園は「大雪な庭」「四季のすみか」「花の泉」「親しみの庭」「カムイミンタラ」とそれぞれ独自の魅力を持つ五つのガーデンで構成され、シーズンごとに全く異なる風景を楽しめる。

花の選定や花摘み、水やりなどフィールド作業全般とガーデンガイドを務める工藤真希江・ヘッドガーデナーは「北海道らしい風景の中で、花の魅力に触れてほしい」と話す。

園内には「緑丘茶房」のほか、フレンチの重鎮・三國清三さんの店「フラテッロ・ディ・ミクニ」などもある。

開園期間は4月下旬から10月中旬。営業時間は9～17時。営業期間中は無休。問い合わせは☎01658（2）4655。